



ハマシギ

飯泉取水堰は、渡り鳥たちの中継地でもあります。春や秋には普段見ることのできないシギやチドリの仲間に偶然出会うこともあります。

ハマシギは、日本では旅鳥または冬鳥として、全国各地に飛来します。目的地である干潟や砂浜では、数万羽に及ぶ大群を作ることもあります。

目 次

巻頭言

未来につながる学校をめざして

小田原市教育研究所所長 2

1 小さなころみ

「学級経営で大切なことを一言で語る自信がありますか」

小学校学級経営に関する研究員 3

2 学びの架け橋

「思考を深めて表現力につなぐための学習活動の工夫」

国語 プロジェクト研修員 4

「活用する力を育てる算数・数学指導の工夫～数学的表現力をはぐくむ～」

算数・数学 プロジェクト研修員 5

3 ある教室から

「教師の熱意、やる気」

教育指導課指導主事 6

4 研究所だより

教育指導課指導主事 7



未来につながる学校をめざして

小田原市教育研究所所長

サッカー・ワールドカップ南アフリカ大会では、日本代表チームの活躍が見られました。活躍の要因は選手一人ひとりの能力の高さはさることながら、監督の指揮のもと、選手たちがよくまとまり、チーム一丸となって戦ったことにあったように思います。お互いの意思疎通を図った連携プレーが随所に見られました。これらは様々な場面を想定した練習の積み重ねによってなし得ることを実感しました。

このことは、学校にも言えると思います。教師一人ひとりの力はもとより、学校組織としてまとまり、組織力を高めることにより、教育目標の実現や複雑化する教育課題への対応がより効果的にできるのではないかと思います。よりよい教育活動をめざして、各学校では学校評価を活用して、学校組織の運営、教師の指導力、家庭や地域との連携のあり方等、自校の現状を把握するなかで、課題や改善点を明確にして職員全員で共有し、組織として改善の取組をされていることと思います。学校評価は「学校組織の改善をめざし、組織を円滑に運営して、PDCAサイクルによる学校組織のマネジメントを行うことにより、教育の質を向上させる活動」であるといわれています。学校教育の質をより高め、学校の組織力を強化する手段として、学校評価を有効に活用していきたいものです。

学校の組織力を基本的に支えるものは、教師の力であると思います。「生きる力」を育成するために、教師一人ひとりが毎時間の授業づくりや様々な活動の工夫をすることは、初任であろうと経験豊かな教師であろうと同じ責務があることは言うまでもありません。

多様な子どもたちの学習意欲を高めそれぞれの力を引き出すためには、教師がお互い指導方法や指導技術を共有し、さらに磨き合っていく学校組織としての取組がますます重要になってくると思います。授業実践や研修を積み重ねることによって、教師力は向上していきます。また校務分掌の適切な役割分担により、校務を経験し役割を果たすことで得られる達成感も教師力を高めていきます。このように高められた教師力が、子どもたちと向き合い、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を展開するエネルギーになるものと確信しています。下村哲夫さんは『教師の条件』（学陽書房）の中で、「教師のライフサイクルは必ずしも一様ではないが、教職に生きる限りまず大切なのは、自らをよりよい教師につくりあげていこうという決意であり、そのための研修である。」と語っています。学習指導力や児童・生徒指導力、保護者対応力等のさらなる向上をめざして校内研修の充実を図り、組織的・計画的に行っていくことは急務です。そして、子どもたちに「これからの時代にふさわしい学力と規範意識」を身につけさせることが教育のプロであり、そのような教師が集う学校が、子どもたちや保護者、地域の方々にとって魅力ある「未来につながる学校」になることと信じています。

未来を拓くたくましい小田原の子どもたちを育成するために、日々研鑽をされている学校そして教職員を支援するという教育研究所の使命を果たせるよう、努力をしていきたいと思っております。



「学級経営で大切なことを一言で語る自信がありますか」



「小学校学級経営」に関する研究員

1 はじめに

学級経営で大切なことを一言で語る自信がありますか。

「小学校学級経営に関する研究」のめざすところは、突き詰めるとこの言葉に集約されると思っている。

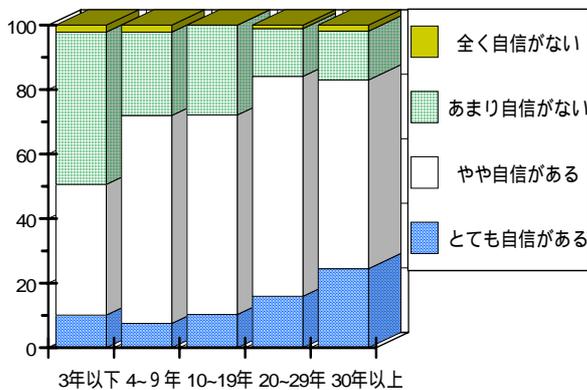
ここ数年来、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中で、「学級経営を一言で語る自信」とは、どのようなものなのだろう。また、「学級経営で大切なものは何なのだろう。」私たちの研究の底を流れているのは、いつもこの問いかけである。

この問いかけを念頭に置きながら、まずはじめに取り組んだのは、市内各小学校の先生方が抱えている学級経営における問題点をアンケートを通して明らかにすることであった。これを調査分析し、浮き彫りになった課題をあらゆる角度から見直し、「よりよい解決策は何だろう」と追究を重ねた。追究を通して見えてきた解決策については、現在、「小学校版学級経営ハンドブック」としてまとめているところである。

2 研究内容

このアンケート結果を見ていただきたい。

学級経営で大切なことを一言で語るができますか。



経験年数が3年以下の教師の半数近くが「全く自信がない」「あまり自信がない」と感じていることや、20年以上の教職経験をもってしても15%以上の教師が学級経営を一言で語る自信がないと感じていることから、学級経営の難しさと奥の深さが改めて浮き彫りになってきた。

さて、それでは「学級経営で大切なこと」とは何なのだろう。それをアンケート結果を考察しながら、我々研究員の英知で8つに絞り、「小学校版学級経営ハンドブック」にまとめているところであり、次は、その8つの重点である。

- よりよい学級経営の構想
- 子どもによりそった児童理解
- 子ども主体の豊かな学級集団づくり
- よりよい授業をしていくための技能
- 学年との連携・協力、学校行事・児童会との関わり
- 教育相談
- 保護者や地域との連携
- 学級経営の評価

3 おわりに

担任教師は常に自分の学級の目標を意識しながら、個々の児童および集団全体の成長・発達の状況を理解し、適切な指導を行わなければならない。そのときに、この冊子が参考になればと願ってやまない。

この研究物には、5人の研究員がこれまでの教職経験を紡いで縫い上げた生きた実践ばかりを載せていくつもりである。経験年数の少ない若い先生方には、是非、手にとって、参考にしてもらいたいと思う。



思考を深めて表現力につなぐための学習活動の工夫

プロジェクト研修員（国語）



【これまでの研究の流れ】

H20 年度：伝え合う力を高める指導の工夫～

表現力の向上をめざして～

「話す・聞く」の小中の系統性を中心に
して研究しました。

H21 年度：伝え合う力を高める指導の工夫～

読みとりから書くへ～

「読む」「書く」を中心に研究しました。

H22 年度：思考を深めて表現力につなげるた

めの学習活動の工夫

【昨年度までの取り組み】

国語科では H20 年度から「伝え合う力」に重点を置き表現力の向上に取り組んできました。スピーチなど「話す」力を伸ばすためには、前もって自分の考えをまとめ「書く」力が必要であり、「書く」力を伸ばすためには他人の考えや気持ちを知って自分の考えを持つことが必要であると考えました。そこで、多くの文章を読みとる力を伸ばし、自分の意見や感想を「書く」ことにつなげる学習活動の研究に小・中で連携してのぞみました。

【今年度の取り組み】

書いたり話したりする表現活動には、作品完成や発表の前に準備の時間も必要となります。たとえば、文章を書く場合は構想を練ったり下書きや推敲などをしたりしますし、

発表をする前に構成を考え原稿を作ったり話す練習をしたりします。

そのときに、自分ひとりで準備や練習をおこなうだけでなく、他の児童生徒と見合うことで自分の思考を深めることができ、より良い表現につながるのではないのでしょうか。

H22 年度は、研究テーマを「思考を深め表現力につなげるための学習活動の工夫」とし、授業研究では中学校においてプレゼンテーションの方法を学ぶ「考える 話す」という学習活動を研究していくことにしました。効果的に話す力をつけることを学習目標とし、グループの形態を活用してテーマに応じた題材選びや効果的な発表のしかたを工夫させることを指導の計画としています。

新しいメンバーとなつての1年目であり、私たち自身も小・中の連携を図るために、それぞれの教科書で表現活動につながる題材にはどのようなものがあるかを読み合ったり、児童生徒の実態を報告しあったりして相互理解に努めています。児童生徒も国語の指導に関わる先生方も、「国語を勉強するのは楽しい」と思える

ようこのプロジェクト研修をすすめていきたいと思えます。



活用する力を育てる算数・数学指導の工夫～数学的表現力をはぐくむ～



プロジェクト研修員（算数・数学）

1 はじめに

昨年度の全国学力・学習状況調査の小

田原市の結果から、児童・生徒ともに「活用する力（数学的表現力を含む）」が不十分なことが分かった。新学習指導要領総則に「活用すること」が明確に位置付けられていることから、「活用する力」の育成は今日的課題であることが分かる。そこで数学的表現力の育成を通して「活用する力」を育て、確かな学力を身につけさせたいと考え、本研究テーマを設定し、今年度はまず小学校での実践を中心に研究を進めている。

2 研究方法

横浜国立大学の石田淳一教授にご指導を仰ぎ、児童・生徒に「活用する力」を身につけさせるための指導の工夫について、3つの側面からアプローチしている。

① 数学的表現力を育てる学習指導の工夫

自分の考えを式や、図、表、グラフなどを用いて数学的に適切に表現させる指導の工夫、友だちの考えを数学的に解釈（理解）する力を身につけさせ、集団解決の場でうまくかかわれない児童を減らす指導の工夫について研究していく。

② 「活用する力」を育てる指導法の工夫

「生活から算数を見つける力」、「情報を整理・選択する力」、「論理的に考える力」、「振り返って考える力」、「解釈する力」、「表現する力」など、「活用する力」には様々な観点がある。それぞれの観点について深く研究し、「活用する力」を育成するためにはどのような指導の工夫が必要なのかを探っていく。

③ 算数・数学的活動を取り入れた授業

算数・数学的活動について理解を深め、実践に生かせるよう研究していく。特に小学校では今回の改訂で算数的活動が具体的に明

記されている。算数・数学的活動について実践を通して研究していく。

3 研究の中で

（1）シナリオ指導の有効性①・②

問題解決学習の望ましいひな型（シナリオ）を児童に演じさせるシナリオ指導を行った。児童が第三者の立場で学ぶことにより、「もし なら、習った考えを使う」などの数学的な見方や考え方、「 さんと同じで(違って)」などの授業でのかかわり方が、意欲的に、効率的に身につけていったように思う。

（2）「読み取り問題」の活用①・②・③

問題文から立式し、計算、答えを出すという一連の流れではなく、最初から図や式を提示したり、友だちの考えを説明させたりと、どういう考え方をしたかを解釈させ、式や言葉で説明させる読み取り問題を取り入れている。これは「解釈する力」、「表現する力」という「活用する力」の育成に役立つ活動であると考えている。

（3）「かかわり」を意識した学習形態①

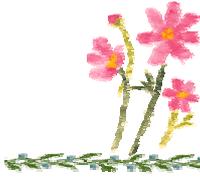
いつも個人で自力解決させるのではなく、ペア解決、グループ解決、全体解決と学びの場を多様化している。「授業はみんなで作る」、「みんなでわかるようになる」という意識で友だちとかかわり、互いに学べるようにしている。さらに自力解決時間の短縮、学力低位の児童の支援の一助となるなど学習形態の工夫はメリットが大ききように感じた。

4 今後の取り組み

上記の三つのアプローチを軸に「活用する力を育てる算数・数学指導」について研究を深め、授業実践で提案していく。そして確かな学力に裏打ちされた「生きる力」を育成したい。

「教師の熱意、やる気」

教育指導課指導主事



先日、教壇に立たれて間もない先生の授業を見る機会がありました。

教室に入ると、みんな静かに体育ずわりをして待っています。先生の授業の始まりの合図に子どもたちの目が先生へ集中します。

「おへそを先生へ」「はい、切り替えて」「友達の発表を耳で、目で、心で聴く」といった先生の言葉から、担任として日頃から大切にしているところがうかがえます。

「今日はゲームをします。」

「やったー。」

これから始まる授業に大きな期待をふくらませています。

ゲームが始まりました。前時まで学んできた九九の知識をもとにして、一人ひとりが思い思いに取り組んでいます。九九を順番に唱えて答えを見つけている子、九九カードを見ながら探している子、さらに友達に答えを確認しながら進めている子など、多種多様な活動が見えますが、どの子も目をきらきら輝かせて真剣です。また、友達の質問に応えてあげているやさしい姿も見られました。発言はみんなの方を向いてされています。そして、友達はそれをわかってあげようとうなずきながら聞いています。先生も笑顔でうなずきながら聞いています。クラス全体がお互いを認め合おうとする雰囲気につつまれています。

授業において、子どもたちが元気に活動していたり、活発に話し合ったりしていると、その姿から、その授業はよかったと評価されるときがあります。または、元気に活動しているからそのまま存分にやらせてあげよう、続けてしまおうなどといったことも時にはやっと思いがちです。

しかし、授業とは、既習の知識をもとにして、個々が思考する場を保障していくことによって、学びが成立するものと考えます。そのためには、子どものゲームを続けたい意識を大切にしつつも、時にはそれをストップし、思考する機会を保障していくぶれない指導力が求められています。本時では、グループ活動が意欲的に行われているように見えた中でも先生は活動をストップし、全体の話合いへと展開していきました。

本時のねらいへと導いていくために子どもの思考の手助けとなるよう、ヒントカードを用いたり、教材の工夫をしたりしていることや、計画的な机間巡視や全体への指示をするとともに、意図的に活動を打ち切っていることなどから、先生が教材研究を入念に行い、何を本時でねらっていきたいのかははっきりとをもって授業にのぞんでいたのだと、私は確信しました。

本時では、さらに話し合いの焦点化をはかり、それぞれの子がもっている様々な考えを交流できるように工夫していくと、子どもたちが自分たちで問題を解決したという喜びを感じ、自ずと授業規律も身に付き、学び方の習得へとつながっていくのではないかと思いました。

子どもはそもそも知りたがっている、考えたがっている、やってみたがっている存在であると考えています。私たち教師は、そのことを意識し、「熱意」と「やる気」を持って常に力量を高め、子どもの学びを中心とした授業作りを目指していかなければなりません。本時は、教師が力量を高めるために「熱意」「やる気」を持って取り組む姿の大切さを改めて感じた授業でした。



探検！発見!! 小田原の自然

～「小田原の自然」活用講座・自然観察会～



「自然観察会って？」・・・研究所刊行物の「小田原の自然」を活用しながら、小田原の植物や生き物、地質などを学ぶ講座です。小・中学校の教員等による講師陣が、私たちの身近にある小さな自然（時には大自然）について、楽しく、詳しく解説をさせていただきます。市内の小中学生、保護者を対象に、年間8回実施しています。教職員の参加も大歓迎です！

4月「平地の自然を観察しよう」

植物観察では、“春の水田に咲く花”に焦点を絞った分類調査は観察学習の方法の一つとして、児童・生徒には工夫・発展につながるものとして意義あるもだった。桑原地区の水田・用水路周辺の道路工事も終わり、メダカ池周辺では、小田原メダカの群生が見られ環境の良化が感じられた。

(研究所研修課職員)

5月「磯と生物を観察しよう」

好天に恵まれ磯の生物を楽しく拝見できました。普段なかなか見られない蟹の脱皮を見ることができ、その真新しい甲の感触は赤ちゃんの肌のようにやわらかく、感動しました。小学生から中学生と参加年齢の幅がひろいこともとても良いことだと思いました。(参加保護者)

江之浦でウメボシイソギンチャクを発見！

6月「ツバメの調査観察に参加しよう」

去年参加したときよりも今年はツバメの数が異常に少なかった。人間が家を建てたり、田んぼをうめ立てたり、カラスやヘビがおそったりして少なくなってしまったから、自然を守るためにも意識すべきだと思いました。(中2)

6月「河原の岩石は語る」

自分の標本ができて楽しかったと思います。雨が降ってきて、石がきれいな色になって発見もできました。興味を持ってよりきれいな石を探してほしいです。私は4歳位からきれいな石をひろって、今日も拾い続けています。(講師)

7月「夏の虫を探そう」

足元に目を向けさせることで、普段見過ごしてしまうような小型の小動物をたくさん観察・採取できた。参加者も開催時刻前から草むらに入り小さな昆虫を根気強く探し、熱心にサンプリングするなど自分から意欲的に活動する姿が印象的だった。

辻村植物公園でキアシクサヒバリを発見！

(研究所研修課職員)

これからの 自然観察会

11月6日(土) 小田原の地形
～地質・地形を調べよう～

1月22日(土) 酒匂川の野鳥
～冬の鳥をみよう～

終了しました。

自然との触れ合いを！ 子どもが、『これ、なあに？』と昆虫などに興味を示した時には、要注意！大切なのは、『これは、虫だね、この虫はね・・・』という知識だけではなく、『おもしろい虫だね！立派そうなのひげがあるよ』一緒に驚き、発見した喜びを一緒に味わい、初めて見る虫に出会って、わくわくどきどきする気持ちを見守ってあげてください。

7月の自然観察会では、親子で必死に虫を探したり、取った虫を見せ合ったりする光景がほほえましいものでした。子どもと一緒に自然に触れ、自分の感じたまま、思ったまを、共に語り合うことが子どもの感性を育てていくのです。

夢中で虫を探すように、何か一つのことに夢中になることはまた、いろいろな場面で子どもたちを支える糧となります。小田原では、田畑や川がある場所ではもちろん、比較的建物が多い地域でも、たくさんの虫を見つけられます。子どもと一緒に外に出て、自然に触れながら語り合ってみてはいかがでしょうか。

(講師のことは 『広報小田原 2009年8月1日号』より) -

夏のスキルアップ！英語？それとも PC？

～平成 22 年度夏季研修講座～

旧片浦中学校施設利用モニタリング調査の一環で、「楽しい外国語活動ワークショップ」「ICT 活用力向上研修」の 2 つの「夏季研修講座」を実施しました。(8 月 2 日・17 日)

「外国語活動ワークショップ」は、ほぼ 100% 英語による“英語漬け”の内容で、また「ICT 活用力向上研修」は、“2007”へ大きく変わった「Word」「Excel」「PowerPoint」の特徴や、便利な技を学ぶなど、どちらも充実した研修となりました。

今回の講座でよかった点について参加者に伺ってみました。

【外国語活動ワークショップより】

- ・ シンプルな言葉とジェスチャーでよいということが分かり安心しました。シンプルな言葉がすぐ出てくるように勉強したいです。
- ・ 講師の先生のエネルギーでフレンドリーな雰囲気。英語しか使えなくても、気が重くならないような雰囲気がとてもよかったです。教材の工夫も見習いたいです。
- ・ 日本語を使わず英語のみの授業だったこと。
- ・ 一つのレッスンについて、どのようにアクティビティを発展させていくのがよくわかりました。実際に話して動いて「なるほど」でした。英語ノートにとらわれすぎず、上手な活用を試みようと思いました。
- ・ アクティビティのみに焦点のある点。すぐに活用できるゲームが多くあった点。



【ICT 活用力向上研修より】

- ・ 基礎から丁寧に教えていただいたことや、分からないところを親切に教えていただいたことが良かったです。
- ・ 自分が、今まで Word の殆ど便利な機能を使っていなかったことがわかりました。また、この年齢になっても、まだ新しいことを学ぶとワクワクする自分がいることに驚きました。
- ・ 目的がはっきりしていて、希望する内容を選んで参加できるところが良かったです。一太郎しか使っていなかったもので、今後 Word も少し使えるのではないかと思います。
- ・ Excel は、今まで使用しても体系的に学んでいませんでしたので、よい機会でした。また、2003 から 2007 に変更になった部分の説明があり、良かったです。
- ・ パワーポイントが使えるらいいなと思えたこと、困ったときにすぐにサポートに来てくださったこと、ゲームのようなものを作ったことで、即使用と思えたことが良かったです。



教育研究所では、今回の研修内容等を改善しながら、皆様のニーズにあった研修を開催できるよう取り組んでまいります。「こんな研修があったら行ってみたい！」という内容について、是非研究所まで声をお寄せください。お待ちしております。

小田原教育 第 113 号

発行日 平成 22 年 10 月 8 日 (金)

発行所 小田原市教育研究所

発行者 所長 小泉 信二

〒250-8555 小田原市荻窪 300

電話 33 - 1730